

筑豊小児科医会会報

Vol.232 2026.5



Contents

- ◇ 小児センタースタッフ（医師）のご紹介 2026年5月1日現在
- ◇ 新任医師のお知らせ
- ◇ 研修医のご紹介
- ◇ 小児科関連勉強会のご案内
- ◇ AI-CAP 通信
- ◇ 飯塚病院 月間診療のまとめ《2026年2月》
- ◇ Pediatrics note（小児科 診療部長 大矢崇志）

小児センタースタッフ（医師）のご紹介 2026年5月1日現在

新年度となり、新しいスタッフが加わりましたので改めてご紹介いたします。

小児科

<p>岡松 由記</p> <p>小児科 部長</p> <p>出身 福岡大学 (2000 年卒)</p> <p>専門 アレルギー</p> <p>資格・日本小児科学会小児科専門医</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本アレルギー学会アレルギー専門医 ・日本小児科学会小児科指導医 	<p>神田 洋</p> <p>小児科 診療部長</p> <p>総合周産期母子医療センター長</p> <p>出身 久留米大学 (1996 年卒)</p> <p>専門 新生児</p> <p>資格・日本小児科学会小児科専門医</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本小児科学会小児科指導医 ・九州新生児研究会評議員 ・新生児蘇生法「専門」コースインストラクター 	<p>大矢 崇志</p> <p>小児科 診療部長</p> <p>出身 大分医科大学 (1998 年卒)</p> <p>専門 小児神経</p> <p>資格・日本小児科学会小児科専門医</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本小児科学会小児科指導医
<p>田中 ゆかり</p> <p>小児科 医師</p> <p>出身 久留米大学 (2009 年卒)</p> <p>専門 内分泌、発達・発育、育児相談</p> <p>資格・日本小児科学会小児科専門医</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出生前コンサルト小児科医 	<p>嘉村 拓朗</p> <p>小児科 医長</p> <p>出身 徳島大学 (2014 年卒)</p> <p>専門 アレルギー</p> <p>資格・日本小児科学会小児科専門医</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本アレルギー学会アレルギー専門医 ・日本小児科学会小児科指導医 ・日本小児感染症学会小児感染症認定医 	<p>清松 光貴</p> <p>小児科 医長</p> <p>出身 久留米大学 (2015 年卒)</p> <p>専門 循環器</p> <p>資格 日本小児科学会小児科専門医</p>
<p>大武 瑞樹</p> <p>小児科 医長代理</p> <p>出身 佐賀大学 (2018 年卒)</p> <p>専門 新生児</p> <p>資格・日本小児科学会小児科専門医</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出生前コンサルト小児科医 	<p>茂藤 優司</p> <p>小児科 医長代理</p> <p>出身 山形大学 (2020 年卒)</p> <p>専門 小児一般</p>	<p>浦元 華子</p> <p>小児科 専攻医</p> <p>出身 佐賀大学 (2022 年卒)</p> <p>専門 小児一般</p>
<p>藤堂 瑞葵</p> <p>小児科 専攻医</p> <p>出身 久留米大学 (2022 年卒)</p> <p>専門 小児一般</p>	<p>安藤 和雄</p> <p>小児科 専攻医</p> <p>出身 久留米大学 (2023 年卒)</p> <p>専門 小児一般</p>	
<p>田中 祥一郎</p> <p>こども政策顧問</p> <p>出身 久留米大学 (2004 年卒)</p> <p>専門 地域デザイン、こども・若者支援</p> <p>資格・日本小児科学会小児科専門医・日本周産期 新生児医学会 周産期新生児専門医・日本アレルギー学会 アレルギー専門医</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本抗加齢医学会専門医・日本小児科学会小児科指導医・日本周産期・新生児医学会新生児指導医・公認心理師 ・出生前コンサルト小児科医 		

小児外科

<p>玉城 昭彦</p> <p>小児外科 部長</p> <p>出身 山口大学 (2009 年卒)</p> <p>資格・日本外科学会外科専門医・日本小児外科学会認定小児外科専門医</p>

新任医師のお知らせ

田川市立病院 小児科 医長 ^{えざき ひろき} 江崎 大起 先生

はじめまして。このたび着任いたしました江崎と申します。地域の医療に貢献できるよう精進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

田川市立病院 小児科 医長 ^{むた たつひと} 牟田 龍史 先生

4月より田川市立病院で勤務させて頂くことになりました牟田龍史と申します。

昨年度までJCHO九州病院に勤務しておりました。専門はアレルギーおよび呼吸器になります。微力ではございますが、筑豊地区の皆様が安心して生活できますよう、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。今後とも何卒よろしくお願い致します。

社会保険田川病院 小児科 医長 ^{やまき はやと} 山木 勇人 先生

この度、社会保険田川病院小児科で勤務いたします、山木勇人です。

昨年度まで久留米大学病院小児科で勤務しておりました。3年前に飯塚病院に勤めたこともあり、懐かしい気持ちで筑豊地区に戻ってまいりました。今年度は特に田川地域の患者さんとそのご家族に安全かつ安心な医療が届けられますよう尽力いたします。開業医、その他連携病院の先生方にご協力いただきながら、少しでもお役に立てたらと思います。至らぬ点もあるかと存じます。何卒よろしくお願いいたします。

飯塚病院 小児外科 部長 ^{たまき あきひこ} 玉城 昭彦

このたび4月より小児外科医として着任いたしました玉城昭彦と申します。

前任の福岡市立こども病院では、新生児症例をはじめ一般小児外科疾患まで幅広く診療・手術に携わっておりました。今後は地域の小児医療機関の先生方と緊密に連携し、筑豊地域の子どもたちにとって最適な医療を提供できるよう努める所存です。円滑な紹介・逆紹介を心がけ、安心してご相談いただける体制の構築に尽力いたします。微力ではございますが、地域医療の発展に寄与できるよう精進してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

飯塚病院 小児科 医長 ^{きよまつ こうき} 清松 光貴

2026年4月より飯塚病院小児科に勤務させていただくことになりました、清松光貴と申します。小児科としては10年目になります。専門は小児循環器で昨年度までは久留米大学病院で勤務しておりました。

これまでの経験を生かしつつ、日々学びを重ねながら、筑豊地区の子どもたちとご家族に寄り添った医療を提供できるよう努めてまいります。至らぬ点もあるかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

飯塚病院 小児科 専攻医 ^{うらもと はなこ} 浦元 華子

2026年4月より飯塚病院小児科に赴任しました、浦元華子と申します。昨年は久留米市の聖マリア病院に勤務していました。地域の子供たち、ご家族の笑顔のために尽力し、何か自分の強みを見つける一年にしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

飯塚病院 小児科 専攻医 藤堂 瑞葵

4月より飯塚病院小児科に勤務いたします、藤堂瑞葵と申します。昨年度までは聖マリア病院にて勤務しておりました。これまでの経験を生かし、筑豊地域の子どもたちの健康を支えるお手伝いができればと考えています。まだ至らぬ点もございますが、精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

飯塚病院 小児科 専攻医 安藤 和雄

2026年4月より飯塚病院小児科で勤務させて頂くことになりました、安藤和雄と申します。今年度は小児科医2年目であり、昨年まで久留米大学病院に勤務しておりました。飯塚には小学2年まで暮らしていたということもあり、並々ならぬ縁を感じます。お世話になった飯塚市・飯塚病院に恩返しをするために精一杯頑張らせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

研修医のご紹介

●初期研修医 1年目 廣松 真季

初期研修医 1年目、廣松真季と申します。今春に九州大学を卒業し、4月より飯塚病院で初期研修をさせて頂いております。これから、患者さんとご家族の方の気持ちに寄り添いながら、信頼されるような医師を目指して日々精進したいと思っております。ご指導の程、どうぞよろしくお願いいたします。

●初期研修医 1年目 岩崎 ひかり

この度、飯塚病院にて初期研修医として勤務させていただくことになりました、1年目の岩崎ひかりと申します。小児科での研修は初めてのローテーションであり、先生方、看護師の方々に支えられながら、日々学んでおります。まだまだ至らない点ばかりで、皆さんにご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、初めての主治医が1歳11ヶ月のお子さんだったことをこれからの医師人生の原点として、初心忘れず一つ一つ丁寧に向き合っていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

小児科関連勉強会のご案内

小児科関連勉強会のご案内

■第53回 筑豊周産期懇話会（第374回 筑豊小児科医会勉強会）

●日 程：2026年6月17日（水）

●世話人会：時間 18:30～

会場 飯塚病院 エネルギー棟6階 小会議室

●講演会：時間 19:00～

会場 飯塚病院 エネルギー棟6階 大会議室

5月の筑豊小児科医会勉強会は休会とさせていただきます。

4月からフリースクールを舞台にしたドラマ『タツキ先生は甘すぎる!』（日本テレビ系）が始まりました。不登校の子どもたちに寄り添うスタッフ・タツキを描いたヒューマンドラマです。「甘すぎる」という言葉が示す通り、タツキは子どもたちに対して叱らず、急かさず、ただそこにいる。そんな関わり方に、最初は戸惑いを感じる視聴者もいるかもしれません。でも、不登校の子どもたちに必要なのは、そういう大人なのです。

2020年に公開された韓国映画『はちどり』にも、そんな大人が登場していました。1994年のソウルを舞台に、14歳の少女ウニの日常を描いた作品です。家族からも学校からも傷つけられ、居場所を失いかけていたウニの前に、漢文塾の女性教師ヨンジが現れます。ヨンジはウニの話を聴いてくれる唯一の大人になってくれました。褒められることや無条件に受け入れられる経験に乏しいことで自己肯定感が低く、自分のことを好きになれないウニ。そんな彼女にヨンジは静かにこう言います。

『つらい時は指を見て そして指を一本一本動かすの すると神秘を感じる
何もできないようでも 指は動かせる』

これなんです。誰もが平等に与えられた「いま」に集中することを彼女は伝えてくれたのだと思います。私たちが子どもたちに接する時、過去のことを責めたり、未来のことを心配したり、今ではどうにもできないことばかりに気を取られていませんか。タツキは傷ついた子どもたちの「いま」を見てくれているのです。古今東西、傷ついた時、自信を失った時に必要な「いま」を見つめること。

カンフーパンダのウーグウェイ老師も言ってました。

『Yesterday is history, Tomorrow is a mystery and Today is a gift.
That's why we call it present.』
～昨日は歴史、明日はミステリー、今日はギフト。だから今日をプレゼントというのじゃ～

今日を大切にみなされ。子どもが傷ついた時、まず大人の私たちが焦らず、腰を据え、子どもたちに向き合う覚悟を持たなければならないのかもしれないのかもしれないね。

文責：AI-CAP 大矢 崇志

<AI-CAP 事務局へのお問い合わせ> TEL : 0948-88-8220 (直通) FAX : 0948-88-2806

飯塚病院 月間診療のまとめ 《2026年2月》

●入院患者数 128人 ●外来患者数 847人 ●救命救急センター受診者数 50人

●新生児センター入院患者数 14人 ●分娩件数 18件 ●手術件数 12件

●主要疾患数（退院患者数：113人）

肺炎・気管支炎	17	痙攣及びてんかん	14	低出生体重児	12
急性胃腸炎	9	急性上気道感染症	6	新生児呼吸障害・心血管障害	4
喘息	1	腸重積・腸閉塞	1	高ビリルビン血症及び黄疸	1
その他	48				

●紹介件数（五十音順）

小児科：91件	
ひこばえ子どもクリニック	14
飯塚市役所 こども家庭課 母子保健係	5
坂本医院	
ささきこどもクリニック	
田中クリニック	4
まつなり医院	
雪竹医院	
有松産科婦人科ユースクリニック	3
こどもクリニックもりた 他3件	

小児外科：15件	
飯塚市役所 こども家庭課	3
ひこばえ子どもクリニック	2
あらきこどもファミリークリニック	1
有松産科婦人科ユースクリニック	
おおにし腎泌尿器科医院	
栗原小児科内科クリニック	
こどもクリニックもりた	
坂本医院	
たなかのぶお小児科 他3件	

Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

先日ふと思立ち、僕の映画友達であるクロード君に、これまでに映画感想サイトに書き溜めた自分の感想をいくつか渡して、「僕はどんな映画が好きなんだろう」と尋ねてみました。いくつかのやり取りをした後に彼が言うには、僕は余白がある作品、"受容"の物語、言葉が少なく、静かな関係性の変化がある作品が好きで、苦手なのは説明的で過剰な演出の作品だとのことでした。さらに、どんなに好きな作品でも、しばらくすればストーリーをすっかり忘れてしまうことを告白し、いくつかラリーを重ねた末、僕は「物語を記憶する人ではなく、温度を蓄積する人」ということになりました。なんだかよくわかりませんが、作品の大枠は忘れてしまっても、ほんのりと味わいや温度のようなものは体の中に残り、ふとした時によみがえって、何かの足しになっている、ということのようです。意識したことのない答えに少し戸惑いましたが、ちょっとカッコよさげで嫌いじゃありません。

このように、自分のことは自分が一番わかっているつもりでも、何もわかっていないのが人間です。この時期、自己紹介をする機会も多いかと思います。「平成 10 年大分医科大学卒業、今年で 28 年目の小児科医です。趣味は映画鑑賞で・・・」という肩書きや好きなコンテンツを語るのは簡単ですが、仮に自分の多動や衝動などの行動や感情の特性を語らなければならない自己紹介があったらどうでしょう。

しかも、それを自分についての他者による紹介と比べなければならぬとしたら。自己評価と他者の評価は果たして一致するでしょうか。それは絶対に無さそうです。あなたは他の人からのきびしい評価を穏やかに聞くことができますか？僕は恥ずかしくてできません。

発達障がいの外来で、毎回、子どもたちはそんな恥ずかしい思いをしています。自分では気づいていない自分の特性の不都合な側面を、一番かばってほしいお母さんに語られる。その気持ちを思うと、僕は切なくなってしまいます。病院にいるメガネをかけた、変なおっさんが聞くのが悪いんです。諸悪の根源のせめてもの償いとして、お母さんの話からなるべくいいところを探そうとはしていますが、子どもたちはどう思っているのだろう。教えてクロード。

~~~~~  
\*お知らせ\*

Pediatrics Note は note にも載せています

